

150億円投資

# 都内に大型物流施設

## アライプロバンス「脱・製造業」加速

アライプロバンス(東京都墨田区、新井嘉喜雄社長)は、東京都江戸川区東葛西に所



東京・江戸川区の大型物流施設建設予定地(旧江戸川沿いの更地部分)

アライプロバンスが計画する新物流施設の建設予定地は東京都の東端に立地し、東京ドームより約2割広い

有する同社工場跡地(敷地面積約5万6500平方メートル)に、大型物流施設2棟を建設する。2022年夏ごろまでに1期工事に着手する。総投資額は約150億円を見込む。資金は銀行融資で調達する。同社は製造業から総合不動産業への転換を進めており、物流施設を手がけるのは2拠点目で、投資規模は前回の3倍となる。

規模。旧江戸川沿いに位置する南北に縦長形状の土地で、西側にショッピングモールやホームセンターがあるほか、首都高速湾岸線「葛西IC」から約2キロという首都圏向けの好立地。電子商取引(EC)などの拡大による「ラストワンマイル」の物流ニーズに対応する。同社は第1期工事で土地の南側に上り下り

専用のランプウェイを備えた大型物流施設を23年下期から24年初頭に建設予定。第2期で北側にボックス型またはスロープ型の物流施

設を加える。特別高圧電力での電力供給を受けるため、東京電力と協議を進めている。川に面したテラスの整備やカフェの併設など、働く人のためのホスピタリティーも重視する方針だ。

同社は20年に製造業から総合不動産業へ業態転換した。千葉県浦安市の旧浦安工場跡地にも物流施設を建設中だが、江戸川区の敷地はその敷地面積の約4倍。新井太郎専務は「今回の開発を通して、社の存在感を新たに示したい」としている。